小中一貫校　南アルプス市立小笠原小学校　学校通信

あかるく　かしこく　たくましく

令和５年８月３０日　Ｎｏ．２０　文責：校長　佐野紳二

今，子どもたちに求められる学力とは　全国学力学習状況調査の結果より

今年も７月３１日に，４月に実施された全国学力学習状況調査（以下，全国学調）の結果が公表されました。それを受けて，本校でも９月中旬には，個々の採点結果と南アルプス市および本校の結果分析を６年生に配付させていただく予定です。１学期にも学校通信で学力について書かせていただきましたが，今回は全国学調の問題や全国の児童の回答結果（本校の児童ではありません）を見ながら，近年，子どもたちに求められている「学力」について考えてみたいと思います。

今年の全国学調の問題は，国立教育政策研究所のホームページ等で見ることができます。
右の URL からアクセス可能です。　https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm

まずは読解力！子どもたちに求められる学力①

国語：２２ページ　　算数：２６ページ

これは，今年出題された国語・算数それぞれの問題の分量です。実際の問題を見ていただければわかりますが，かなり余裕をもって問題が書かれているので，ページ数の割には問題が少ないという印象を受けるかも知れませんが，それにしても国語・算数ともに問題が２０ページを超えています。もちろんこれは今に始まったことではなく，全国学調が始まった当時から「問題文が長い」傾向はありました。全国学調同様，毎年行われている大学共通テストでも同様な傾向は見られます（というか，さらに顕著に見られます）。今年の１月に行われた大学共通テストでは，国語の問題は４８ページ，数学は数学Ⅰ・数学Ａが２２ページ，数学Ⅱ・数学Ｂが２６ページ（選択問題あり）と，与えられた情報量の多さが指摘されていました。もちろん，全国学調も大学共通テストも，問題量が多い・問題文が長いだけではなく，質問に答えるためには問題を「読み解く」必要があり，問題文を何度も読み返さなければなりません。

これらのことから，現代の子どもたちに求められている学力のひとつが「大量な情報の中から自分に必要な情報を読み解き，取捨選択する能力」であると考えられます。全国学調の国語の問題を見ても，記述式の問題では「文中から言葉や文を取り上げて書く」という条件が付けられている問題がとても多くありました。算数のように量が多い問題を解くためには，大量データや文脈の中から自分に必要な条件を見出すことが，計算の技能等以前に必要となるでしょう。大学共通テストの数学Ⅱ・Ｂの問題は，読み解くだけで時間がとてもかかり，限られた時間の中で答えを出すのが非常に困難だと指摘されていました。いずれにしても，最近のテストの傾向からは「多くの情報の中から自分に必要な情報を取捨選択する能力」が求められていることを強く感じます。

その一方で，かなり前から子どもたちの「活字離れ」が問題視されています。今回の全国学調でも，理由を書きなさいという問題では「無回答」が相当数見られましたし，「回答時間が短かった」という声も多かったようです。読解力とともに「長文に向き合う力（嫌にならずに最後までしっかり読む姿勢）」が必要なのかもしれません。

奇しくも，本校の学校評価の児童アンケートでは，子どもたちの読書離れの傾向が見取れました。

では，子どもたちの「読解力」を高めるためには，どんなことをすればいいのでしょうか？

学校の授業の中で我々教師が意識して行わなければならないことも数多くありますが，ここでは「家庭でできる子どもたちの読解力を高める方法」を紹介したいと思います。

題して，**「家庭でできる！子どもの読解力をアップさせる３つの方法」**

１　読書をする【語彙力を上げる】

読書をしてたくさんの文章を読むことで，語彙力を上げることができます。

読解力を身につける上で，語彙力は非常に重要です。分からない漢字や言葉があったらそのままにせず，辞書をひかせたり，意味を教えたりしましょう。

低学年の子どもに黙読をさせると，分からない言葉を読み飛ばしてしまう恐れがありますので，音読をさせて読み飛ばしを防ぎましょう。また，低学年の子どもはまだ言葉をあまり知らないので，すすんで本を読む子は少ないかもしれません。慣れないうちは親が読み聞かせをしたり一緒に読んだりして，読書は楽しいという気持ちを持たせましょう。

２　要約の練習をする【要約で読解力向上】

読んだ本の内容を説明させること，要約させることも読解力向上に繋がります。「誰が・いつ・どこで何を・どうした」を意識した要約をさせ，親もそれを意識して聞くようにしてください。

最初のうちはうまく要約ができず，何も言えないかもしれません。その場合は「いつのお話なの？」「誰がそう言ったの？」「〇〇はどうなったの？」というように小刻みな質問で誘導しながら要約をさせます。読んだ本に関して簡単なあらすじを書く，というのもよい訓練になります。本の内容を読解し，内容を要約する力が少しずつ身についていきます。

３　たくさん会話をする【会話で読解力アップ】

文章の要約が上手にできるようになるには，普段の会話も大切です。

大人の会話には「誰が・いつ・どこで・何を・どうした」が自然に含まれているはずです。それを子どもに聞かせてあげましょう。子どもは私たちが思っている以上に親の言うことをよく聞いています。大人の話を聞いて，効果的な要約の仕方はもちろんのこと，読解力を高めるために不可欠な語彙も身につけていきます。

語彙力を高めるためにも，親が「子どもの前だから簡単な言葉を使おう」と意識する必要はありません。子どもに「〇〇ってどういう意味なの？」と聞かれたら，意味を教えるか辞書を引かせましょう。そして，子どもにも，学校で何があったのかを聞き，出来事を要約して伝える力を身につけさせていきましょう。

参考：キッズカウ　親子の悩みにこたえるメディア

https://kidsplanet.co.jp/council/reading_comprehension

夏休み明け早々にちょっと堅苦しい話題となっていますが，もうしばらくお付き合いください。

次号では「活用力・表現力」や「基礎基本」について触れさせていただこうと思っています。